

Title	3 : 東京歯科大学水道橋病院口腔外科における全身麻酔症例の臨床的検討
Author(s)	田中, 斉; 星野, 照秀; 加藤, 宏; 西山, 明宏; 大野, 啓介; 吉田, 秀児; 高木, 亮; 菅原, 圭亮; 渡邊, 章; 山本, 信治; 笠原, 清弘; 高野, 正行; 片倉, 朗; 柴原, 孝彦
Journal	歯科学報, 119(5): 449-449
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/5030">http://hdl.handle.net/10130/5030</a>
Right	
Description	

## No. 3 : 東京歯科大学水道橋病院口腔外科における全身麻酔症例の臨床的検討

田中 齊<sup>1)</sup>, 星野照秀<sup>2)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 西山明宏<sup>2)</sup>, 大野啓介<sup>1)</sup>, 吉田秀児<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>2)</sup>,  
菅原圭亮<sup>2)</sup>, 渡邊 章<sup>1)</sup>, 山本信治<sup>1)</sup>, 笠原清弘<sup>2)</sup>, 高野正行<sup>1)</sup>, 片倉 朗<sup>2)</sup>, 柴原孝彦<sup>1)</sup>  
(東歯大・口腔顎顔面外科)<sup>1)</sup> (東歯大・口腔病態外科)<sup>2)</sup>

**目的**：水道橋病院口腔外科では顎変形症，口腔癌，唇顎口蓋裂を中心として手術を行っているが，症例数の増加に伴い，待機時間が長くなっていた。最近では病棟，手術室の改築に伴うシステム改革を行い，手術室での手術枠の確保を目指してきたが，手術件数には限りがある。そのため，2017年度より一部の全身麻酔下での手術症例を麻酔科外来で施行するよう移行し，手術室での手術枠を確保するシステムを開始した。今後の全身麻酔による手術の効率的稼働を図るために，水道橋病院口腔外科において，過去10年間の手術室，歯科麻酔科外来での全身麻酔による手術症例について臨床的検討を行った。

**方法**：2009年4月1日～2019年3月31日までの10年間に東京歯科大学水道橋病院口腔外科で手術室，歯科麻酔科外来で全身麻酔下に手術を施行した患者を対象とした。調査項目はカルテならびに患者情報をもとに，性別・年齢・手術件数・手術内容・手術時間・出血量等について集計した。

**結果および考察**：手術室，歯科麻酔科外来で全身麻酔下に手術を施行した症例件数は5,197件であった。その内訳は手術室で4,748件，歯科麻酔科外来で449件であった。性別は男性2,262件(43.5%)，女性2,935件(56.5%)で女性が多く，手術時年齢は20

歳代が1,583件(30.5%)と最も多かった。手術内容は，手術室では顎矯正関連手術(重複あり)が1,746件(33.0%)で最も多く，次いでプレート除去術949件(17.9%)，嚢胞摘出術872件(16.5%)，歯科麻酔科外来では埋伏歯等の抜歯術364件(71.8%)，嚢胞摘出術77件(15.2%)，良性腫瘍切除術14件(2.8%)であった。2018年度の手術件数は手術室で552件，麻酔科外来で141件であった。前年度と比較して，手術室で10.2%の減少がみられ，歯科麻酔科外来で36.9%の増加がみられた。また，2018年度の手術室での抜歯・嚢胞摘出術は46件で，2017年度の85件から39件減少している。この要因として，2017年度より開始した低侵襲の全身麻酔症例を歯科麻酔科外来で施行するシステムが，昨年度と比較して効率よく運用されていることが考えられた。また，神経修復術などの専門的な手術が増加している理由として，手術室の効率的運用が可能になったこと以外にも，専門外来が開設されたことが考えられる。今後の手術室における専門性の高い症例の増加のために，専門的症例の窓口としての専門外来のさらなる拡充，また，外部への情報発信が必要であると考えられる。

## No. 4 : 東京歯科大学千葉歯科医療センター歯科麻酔科外来症例の臨床統計

大塩昌弥，高橋香央里，水城 凱，前原彩香，高野恵実，飯嶋和斗，萩原綾乃，川口 潤，  
松浦信幸，一戸達也(東歯大・歯麻)

**目的**：2017年1月～2018年12月までの2年間に歯科麻酔科での外来症例について集計し，検討したので報告する。

**方法**：患者総数，症例数，性別，年齢，疾病別患者分類，処置内容および管理方法についてレトロスペクティブに集計した。本研究は，東京歯科大学倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号951)。

**結果および考察**：患者総数は2017年が2,399名，2018年が2,319名，症例総数はそれぞれ6,286症例と6,420症例で，そのうち，男性が2,765例と2,889例，女性が3,521例と3,531例であった。患者総数は前年と比較して若干の減少傾向を認めたが，症例数は増加傾向にあった。患者年齢層は40代が最も多く，次いで30代，20代となった。調査対象とした2年間で患者年齢層に差異は認められなかった。

患者分類は，歯科恐怖症患者症例がそれぞれ1,508例と1,605例，障がい者症例が1,448例と1,669例，有病者症例が565例と513例，インプラント症例が188例と193例，ペインクリニック症例が1,320例と1,609例，その他の症例が1,257例と831例であった。総症例数の増加に伴い有病者症例，その他症例を除き全ての症例で増加を認めた。有病者症例の内

訳は，循環器系が591例と625例，呼吸器系が149例と136例，代謝内分泌系が95例と115例であった。

麻酔管理の必要な症例がそれぞれ3,034例と3,307例であった。管理法は，静脈内鎮静法症例が2,442例と2,574例，全身麻酔症例が189例と186例で，そのうち入院症例が9例と5例，日帰り症例が180例と181例であった。その他，監視症例が323例と468例，モニター監視症例が48例と45例であった。監視症例においては前年と比較して約1.4倍の症例数の増加が認められた。

2018年における症例数の増加は，診療体制の変化によって，外来での鎮静症例，障がい者およびペイン患者の診療が増加したことや，歯科麻酔科医単独による全身管理下での歯科処置を積極的に行うようになったことが要因として考えられた。障がい者症例数の増加の結果を受け，2017年および2018年の障がい者の患者背景について調査した結果，障がい者患者の2年間における総数は688名で，千葉市から約42%，千葉市以外から約57%，県外からは約1%の来院があった。当センターは障がい者歯科治療において今後も重要な役割を担うと考えられる。